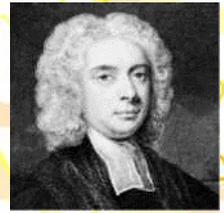


第 17 回バトラー研究会のお知らせ



今回の研究会は 2 部構成で開催します。第 1 部の公開研究会では、有江大介氏(横国大・名)によるキリスト教と Political Economy との関係についての近年の研究動向を、P. Oslington の編著と単著 (*Adam Smith as Theologian*, 2011; *Political Economy as Natural Theology: Smith, Malthus and Their Followers*, 2018) を中心に概観します。第 2 部はバトラー研究会メンバーによる非公開協議会とします。ここでは Mossner 翻訳本の現況の報告と、Springer と出版契約を結んだ英文共同論文集について、編集部との意見交換の経緯紹介と論文集全体の方向の確認について、研究会メンバーでの協議を行います。

第 1 部は公開いたしますので、当該の問題についてご関心のある方々の参加を歓迎いたします。

日時: 2022 年 9 月 25 日 (日) 13:30-17:30

方法: Zoom 会議により開催 (ホスト:松本哲人氏・松山大・研究分担者)

・トピック (会議名): 第 17 回バトラー研究会

・ミーティング URL、ミーティング ID、パスワードは開催当日午前中にメールにて配布。

★ 第 1 部は研究会メンバー以外にも公開しますので、参加希望の方は以下の URL にある「参加登録フォーム」に記入して**開催日前日 (2022 年 9 月 24 日・土) までに送信**してください。

<https://forms.gle/fSNUms1Z8jUZwRUT7>

第 1 部 公開研究会 司会 大久保正健氏

報告: 有江大介氏「Political Economy は Theology に還元できるか: Waterman から Oslington まで」

1979 年のホメイニ革命を契機としたイスラーム世界の宗教化の昂進や、北アメリカでの 1990 年代以降活性化した反進化論の創造論運動やキリスト教原理主義の政治的活性化によって、「宗教」が世界の政治や経済や生活に大きく影響を与えることになった。そうした現実世界の状況を反映して、ブリテンの 18、19 世紀研究の中でも、政治や経済に対してキリスト教との関係において改めてそれらを捉え返す傾向が広がった。B. Hilton, *The Age of Atonement: Influence of Evangelicalism on Social and Economic Thought, 1785-1865* (1988) や A. M. C. Waterman, *Revolution, Economics and Religion: Christian Political Economy, 1798-1833* (1991) などの福音主義に着目する研究が代表的なものである。特に、Waterman は 19 世紀イングランドの経済思想の主流はいわゆる古典派経済学ではなくキリスト教経済学であるとのテーゼを提示した。近年ではさらに、スコットランドまで含めて political economy の生成と展開をすべてキリスト教的自然神学に集約する P. Oslington のような見解も一定の地歩を固めている。

スミスの捉え方を見ると、Political economist ⇒ Civic moralist ⇒ Theologian へと倫理性、宗教性が強まる形で特徴付けが変容している。今回の報告では、以上のような把握が本当に妥当なのだろうかという視点から、political economy の生成期に着目する。その際、ケイムズ卿、ヒューム、スミスに影響を与えたと言われる J. バトラーの議論を手がかりにする。

<予定スケジュール>

13:30-13:45 参加者の自己紹介

13:45-15:15 第 1 部の報告と討論 公開研究会はここで終了

15:15-15:25 休憩

15:25-17:30 第 2 部のバトラー研究会メンバーによる協議

(文責: 有江)